

愛育ながさき Ai-iku-Nagasaki 63号

発行所/一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者/竹内隆伯 発行日/令和7年1月10日
〒852-8104 長崎市茂里町3-24
長崎県総合福祉センター県棟4F 408号
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738
E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

ながさき育成会フォーラム 育成会全国大会 秋田大会



竿灯～秋田市～

ながさき育成会フォーラム

長崎県手をつなぐ育成会が主催するながさき育成会フォーラムが今年度も開催されました。

10月18日午後、長崎県総合福祉センターの大ホールで 100名ほどの参加者を迎えるました。

テーマ I 講演 「強度行動障害を有する児・者への支援～

中核的人材と広域的支援人材の活用」

講師 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園(群馬県高崎市)

理事長 田中 正博 氏

テーマ II 実践報告 ①社会福祉法人南高愛隣会 佐竹 真 氏

②のぞみの園 有期限利用の映像

ところで、みなさまお気づきかと思いますが、国立のぞみの園の理事長は、昨年まで全国育成会連合会の専務理事であった田中正博氏です。会ではさまざま質問もでて、非常に有効な時間となりました。

さて、一言で強度行動障害といっても、生まれつきの障害ではなく二次障害といわれます。自閉症の方に多く、情報を正しくインプットすることが苦手で、しかも感覚過敏や感覚鈍麻などの一般的には理解しがたい特性があり、おかれている状態や現状に不安を感じたりすることで、大声で暴れる、他害や自傷やパニックなどの暴力的な行動をとるようになるようです。しつけようと大声で怒鳴ったり押さえようとしても逆効果でしかありません。しかし、そういう人たちは行き場を失い入所を断られたりするケースが多くみられるようです。



のぞみの園 田中 正博氏

そのことを少しでも改善し、その人たちにあった専門性の高い支援を構築するために、のぞみの園では長い期間、研究実践を続けてこられました。その研究内容と法的な制度が結びつき社会的な支援体制が実現しようとしています。支援がうまくいかない現場へ指導する中核的人材を配置したり、のぞみの園のような広域的な指導ができる機関が地域へ情報発信しています。



南高愛隣会 佐竹 真氏

会では南高愛隣会の佐竹氏による実践報告や、のぞみの園の強度行動障害の方への支援方法などの紹介がありました。2年くらいの入所でみなさん安定して自宅に戻っていかれるという話も聞きました。

周りを困らせる人と思われている強度行動障害の方たちは、実はご本人が、周りがなんと言っているのか分からず、自分が言いたいことも伝わらない「困っている人」なんだを感じました。これからますます研究が進み、一人でも多くの障害のある人たちが安心して暮らせる社会となるように育成会も啓発活動を続けていきたいと思いました。(谷)

フォーラムに参加して

長崎市手をつなぐ育成会 あじさいの家 施設長 毛利 和美

長崎県手をつなぐ育成会主催の「ながさき育成会フォーラム」へ参加してきました。テーマは「強度行動障害児者への支援」という内容で、非常に興味深くお話を聞くことができました。

実は、あじさいの家では強度行動障害支援者養成研修を毎年、順番に受講するようにしています。利用者支援をするにあたって知っておかなければならない学びがあると思うからです。それでも行動障害がある方の支援では悩んだり、場当たり的になったり、困ってしまったという現場の日常があるのが正直なところです。

昨今、強度行動障害を有する方への支援が研修のテーマに掲げられたり、メディアで報道されたものを見聞きしたりする機会も増えたように感じます。これまでの支援も影響し困難を抱えているご本人が多くおられ、そのための支援、取り組みが広がってきていることを実感していますが、生きていく困難さを解消していくためには、その場しのぎの支援ではなく、行動障害のある方を支援する事業所の支援者が支援を見立てて実践する力についての必要性を今回の研修で再確認しました。

中核的人材と広域的支援人材の活用ということで各県に強度行動障害を有する方への支援体制ができる芽を作ることに取り組みだしたというお話があったと思います。地域で困難さを抱えているご本人を支援するために事業所や地域などの垣根を越えて支援することの必要性が示され、課せられた課題は大きいですが、地域福祉を担う一事業所として機能していくよう、まずは事業所での行動障害のある方の支援から、できることをひとつずつ取り組んでいきたいと思いました。

佐世保市手をつなぐ育成会 きらら 管理者 森 翔太郎

令和6年度報酬改定により、重度障害者支援加算は見直しがされ、

- ① 行動関連項目の合計点が18点以上の障害者を受け入れ
- ② 強度行動障害を有する者に対するチーム支援の実施をマネジメントする
 中心的な役割を果たす中核的人材を配置

- ③ 適切な支援を行う

ことを評価する加算が拡充されました。

現在の強度行動障害支援者養成研修や行動援護従業者養成研修は誰でも受講が可能である為、レベル感という部分では支援者間の差が非常に大きくあるという問題がありましたが、実際にスキルがある職員が配置され、適切な評価がなされることは、利用者支援の質の向上に大きく繋がると思われます。

強度行動障害者支援では、利用者様本人が理解できるようにわかりやすく伝え、自立して行動できるための構造化が重要であり、構造化のヒントとなるアセスメント、利用者様に合わせて支援方法を重ねていくことが大事です。

今回のフォーラムを聞き、強度行動障害を専門とする機関の不存在、地域での受け入れ先の全体的な不足を知りました。またメディアでも強度行動障害の特集があり、入所できる施設が見つからない保護者様の苦悩、本人、地方自治体が抱える課題が取り上げられています。

このような課題を解決していく為には、利用者支援を中心となる中核的人材の育成、高度な専門性により地域を支援する広域的人材が重要であり、強いリーダーシップを取れるような人材が地域にいることで、地域の支援体制のボトムアップが期待できると思います。



第63回九州地区手をつなぐ育成会 宮崎大会

主題(大会テーマ) 「笑顔で安心して暮らせるこころ豊かな社会を目指して！」

大会スローガン 「変化する時代の中で、今を見つめ、まずできることを！」

「共に支える地域での暮らしが！」



令和6年11月9日、宮崎市の宮崎市民プラザにおいて、第63回九州地区手をつなぐ育成会 宮崎大会が開催されました。長崎県育成会として48名、貸し切りバスで宮崎に向かいました。宮崎というところは九州でもなかなか交通手段が思うようにいかず、長崎市を朝8時に出発、諫早駅で諫早市の会員さんを乗せ一路宮崎市へ。約6時間の行程でやっと宮崎につくことができました。

宮崎に入ってからまだ時間もあり、青島神社へ参拝することができましたが、その後ホテルへ向かい一休みしてから、本人大会に参加される本人さんたちもみんな一緒に食事へ出かけました。とにかく移動だけで1日かかるので、本人さんたちが疲れないかと心配しましたが、みなさん元気でほっとしました。

次の日が大会当日で、朝から1日の予定で大会が行われました。多くの来賓を招いての式典の後、又村常務理事より中央情勢報告、昼休みを挟んで全体会のみが行われ、閉会式という流れでした。また、本人会の方も本人発表と室内活動コース、また、宮崎思い出バスツアーコースも同時に行われ、長崎県の本人さんたち(長崎・佐世保・諫早・島原・対馬・コロニー雲仙・慈光園清華学園家族会・ふれあいネットワークピア長崎など)も大いに楽しまれたようでした。

中央情勢報告では、新しい法改正について、グループホームからの自立支援の説明がありましたが、そこで大切な事は、グループホームからの「卒業支援」というか、本人の意思決定支援が基本にあり、地域移行への道筋としても本人の意思が最重要課題であることを確認しなければならないということでした。

その他の制度改革の話もありましたが、現在、全国手をつなぐ育成会連合会(全育連)の動きについても報告があり、全国でキャラバン隊活動が活発で充実してきたこと。差別解消法では地方自治体が啓発活動を取り入れることとなっており、キャラバン隊活動がその啓発活動に寄与しているのではないかという話もありました。

他に成年後見制度の課題については、全育連で令和3年に実施したアンケートで結果を踏まえた見直し議論も高まり、実際の法改正へと方向転換がなされるだろうということでした。知的障害者の人たちが使いやすい内容へと法律が改正されれば、育成会としてもこれまで地道に声を揚げてきた甲斐があったというものです。

又村さんは「風雲急を告げる見直し議論」と銘打っておられましたが、確かにそう遠くない将来に法改正への

第1歩が実現するのかもしれません。その他、療育手帳の見直し研究が中京大学の辻井教授によって始められ、全国的に一本化されていなかった療育手帳の判定についても整っていくのではないかと期待ができました。



全育連 佐々木会長

その他「手をつなぐ」の領布促進、津久井やまゆり園での事件を風化させることがないように福祉理念の普及事業の継続を掲げておられました。他、団体会員を広めそのシステムを活用して各育成会が会員増となるようにと話されていました。

宮崎大会は1日で終了し、次の日にまたバスで長崎へ戻りましたが、帰りは綾川渓谷にある「綾の大吊り橋」へ寄り、一番深いところで143メートルと言われる吊り橋をみんなで恐々わたってきました。長いバス移動も大変でしたが、楽しい思い出もでき、みなさん満足して帰路につかれたようでした。(谷)

宮崎大会・本人大会 スローガン「つなごう、広げよう仲間の輪！」

九州地区手をつなぐ育成会宮崎大会が11月9日にあり参加しました。午前中交流会で、テーマは「ふれあいグループで大いに盛り上がろう」で、初めにエイサーという踊りがありました。倉爪さんが司会で、最初はバケツやペットボトルで練習をしていたが、今は太鼓やバチを使い、音楽に合わせて踊っていて上手でした。

テーブルごと8班に分かれ、前列4班・後列4班の代表者の方がトランプに書かれている質問カードを引きました。質問が休日や仕事についての時、私たちの班では宮崎の人達が発表しました。種をまいて育てた野菜をかかしが引いているリヤカーの上で無人販売をしているそうです。休日はエイサーを踊るのも楽しい、きつくなと言っていたので、私も仕事を頑張り、色んなことにチャレンジしたいと思いました。

午後からは本人発表で、テーマは「私たちの声を聞いて、大災害が起きてから考えたこと、悩み、楽しみ、夢」で、私の発表の時みんなの前で緊張しましたが、発表することができ、良い経験になりました。

帰る前に宮崎の人からスイートピーの花束をもらいました。帰つてからグループホームに飾りました。(島原市手をつなぐ育成会 本人部会 チューリップの会会長 満丸 明美)



宮崎大会本人大会では「つなごう、広げよう仲間の輪！」をスローガンに、九州の各育成会より沢山の方が参加されました。

本人発表をする満丸さん

午前の部の交流会では、8班に分かれグループトークが行われ、「住んでいる地域のおすすめ」「仕事で楽しいことや困っていること」「これから挑戦してみたいこと」などのテーマで、各グループより色々な意見や思いを発表されました。私たちのグループでは日南市の事業所で働かれている方より、農作業でスイートピーや大根・オクラ・なす等の野菜を作り販売している様子や、趣味でエイサーのサークルに入り活動している話など、日々の生活や思いを知ることができました。また、司会者の和やかで明るいトークもあり、ざっくばらんで楽しい交流会でした。

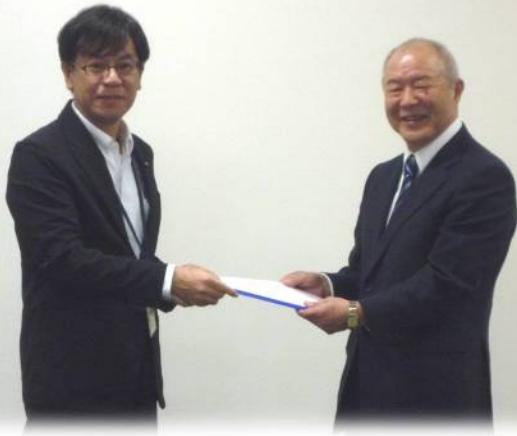
午後の部の本人発表では、「私たちの声を聞いて～大災害が起きて考えたこと、悩み、楽しみ、夢」をテーマに、九州各県の代表者10名より、災害について思っていること・心構えについて・仲間に聞いてほしい悩みや楽しみ・夢についての発表がありました。

長崎県代表として島原市手をつなぐ育成会本人部会チューリップの会会長の満丸さんが発表されました。発表前は少し緊張されている様子でしたが、発表が始まるとしっかりと災害への取り組みや夢・楽しみについて思いを発表され、最後はホッとした様子で笑顔が見られました。テーマである「大災害が起きて考えたこと」については、発表者と支援者や家族のみなさんが災害に備えるための話をすることで、改めて災害についての心構えや再確認が出来、とても良い機会になったのではと思いました。(島原市手をつなぐ育成会 地域福祉活動事務局 松本 恵)

令和6年度 県への要望・意見交換会

去る11月12日、長崎県庁において長崎県手をつなぐ育成会と長崎県障害福祉課等との「県への要望、意見交換会」が行われました。

ここで要望事項を掲げるにあたっての竹内会長より、「長崎県育成会としては、県への要望に関する意見交換を大切に考えています。今回は全国育成会連合会が国に挙げた内容を中心に長崎県に関わっている内容を抜粋して要望しています。国レベルの課題であったりするので全部お答えいただくのは難しいでしょうが、何らかの関連で該当することもあり、回答できる範囲で対応をお願いします。」とお話をされました。



内容としては9項目ほどの課題があがっていましたが、特に関わりのある内容として

- ・強度行動障害児者への重点的な支援・医療的ケア児者に対する支援
- ・強制不妊問題に関する権利回復と救済・個別支援会議について…等々意見交換がなされました。

一つ上げれば、個別支援会議の折、本人も必ず同席して本人の意向を確認することとなりましたが、会議という形に限定しなくともいいのではという意見も出ました。国の方針としては、本人さんの意思決定を重要としていて、作成した意思決定マニュアルに基づいてご本人の意思を確認する新しいシステムへ一歩前進しなければならないようでした。(谷)

障害者施策に関する意見を聴く会

11月12日、長崎県庁にて令和6年度の「障害者施策に関する意見を聴く会」が開催されました。この会は当事者より出た要望や意見を障害者施策の参考にしてもらえるようにと毎年行われています。

長崎県育成会の本人部会きずなの会を代表し、松下 朋子さん(諫早市育成会)、梅山 久幸さん(西海市育成会)、山元 直喜さん(長崎市育成会)、戸畠 元貴さん(ふれあいネットワークピア長崎支部)4名が意見発表をしました。

長崎県障害福祉課からは障害福祉課長をはじめ6名の方が出席され、代表者それぞれの話や要望を聞いていただきました。発表者の方はそれぞれにご自分が以前の職場で受け入れてもらえなかったときの苦しさや、今の仕事で自分が感じていること、障害があり自分の思いをうまく伝えられない仲間のこと、親が亡くなることを考えたときの不安、今の楽しみや日々の生活など要望を絡めながら堂々と語られました。障害福祉課の方からはそれぞれの発表者に丁寧な感想をいただきました。(本人活動サポートマネージャー 吉井 裕子)

障害者施策に関する意見を聴く会に参加して

11月12日の「障害者施策に関する意見を聴く会」は他の人の意見を聴いたり、とてもいい勉強になりました。もしもよければ、また来年も「障害者施策に関する意見を聴く会」で発表したいと思います。みんなの意見が実現するといいですね。そしていつの日か、私の絵の展示が出来ればいいなと思っています。

今僕はグループホームで植物や動物の絵を描いているので、どこかで展示したいと思っています。その時はどうぞよろしくお願いします。寒い日が続いますが、風邪を引かないようにして下さい。また参加出来る事を楽しみにしております。(西海市手をつなぐ育成会 梅山 久幸)

県庁の発表が十一月十二日の十一時から十二時までありました。

県庁の中に入ったのは初めてでした。

発表は一番目だったので、緊張して言葉が早口になったことがあったけど最後まで発表出来て良かったです。発表する場をできたことがうれしかったです。

どこかで、発表する場があれば、発表したいです。

県の発表は自信になりました。

これで、県庁の感想を終わります。(長崎市手をつなぐ育成会 山元 直喜)

第24回長崎県障害者芸術祭 in 対馬

第24回長崎県障害者芸術祭が令和6年12月8日(日)対馬市交流センターで開催されました。つしま蒙古太鼓を皮切りに、手話コーラス、車いすダンス、掛谷剛志氏のピアノ・歌が披露されたあと、長崎OMURA室内合奏団アンサンブルのステージが展開されました。最後は、今回の芸術祭のために集まった合唱団が4曲の合唱を披露され、対馬市民が多数参加のもと、笑顔と感動で大盛り上がりの中、終了しました。



当地での開催は初めてで、対馬市のスタッフは、観客が集まるだろうかと心配していましたが、なんと600名参加の大盛況でほっと胸をなでおろした様子でした。対馬市育成会の安藤会長以下数名の育成会会員及び対馬市育成会を支えてくださっている対馬市社会福祉協議会の方々も大勢スタッフとして活躍していました。

今回は、来年長崎県で開催される「ながさきピース文化祭2025(国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭の愛称)」のプレイベントとして開催されました。来年度の文化祭の期間中(R7.9.14~11.30)は、県内各地で文化の全国大会や地域の特色を生かしたイベントを開催し、長崎ならではの文化の魅力を発信するということです。

生サポは 知的障がい児者・自閉症児者の 家族の安心を支えます

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者・自閉症児者のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

保険のお問合せはこち

■担当代理店・扱者

ジェイアイシーカンガ

〒810-0001 福岡市中央区天神4-6-7
天神クリスタルビル14階
TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562
受付時間: 午前9時~午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

<https://www.aig.co.jp/spono>

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 富士火災福岡ビル
TEL: 092-718-7000
受付時間: 午前9時~午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

●日常生活に関する相談支援

●就労に関する相談支援

●権利擁護に関する相談支援

の3事業を実施しています。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

病気で死亡したとき
疾病群癡費用保険金

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業從事中事故対応費用補償

*上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

ご入会のお問合せはこち

ながさき知的障害児者生活サポート協会

〒852-8134 長崎市大橋町19-19

長崎市手をつなぐ育成会内

TEL: 095-845-5668 FAX: 095-845-5664

受付時間: 午前9時~午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2019年11月現在の内容です。(D-004329 2021-03)

全国手をつなぐ育成会全国大会 秋田大会

～共生社会をめざし、将来を見据えた活動を続けよう～



令和6年10月12日～2日間、あきた芸術劇場と秋田市文化創造館で、全国手をつなぐ育成会全国大会秋田大会が「共生社会をめざし、将来を見据えた活動を続けよう」を大会スローガンとして、開催されました。

佐々木会長から、「今テーマは、まさに障害の有無に関係なく、誰もが共にその人らしく暮らせる社会を目指す、そしてそのために必要な活動(政策を考え、提言する)を次世代に繋ぐという育成会の根幹をなすものであると思います。ぜひ、この大会での学びをそれぞれの育成会活動につなげていただけるよう期待します。」という挨拶がありました。

コロナ感染症第5類移行後、昨年の愛媛大会に引き続き、集合形式での開催となり、秋晴れの竿灯祭りイベントを含め、大勢の会員参加のもと、大きな成果を得て終了しました。

分科会は 第1「子どもの育ちを考える(児童期)インクルーシブな育ちと専門性の両立を考える」

第2「社会参加・就労を考える(成人期)可能性を生かし、自分らしく社会へ羽ばたく」

第3「親も本人も安心して年齢を重ねる(高齢期)「親なき後」と具現的に向き合う」

第4「知的障害者の権利を守る(権利擁護)成年後見制度のあり方を考える」で、児童期、成人期、高齢期、権利擁護のそれぞれの課題を取り上げ、知的障害福祉の未来について考え、学び合う場となり、有識者からの提言をいただき、会場からの意見交換を通じて、偏見や差別のない社会の実現に向けた育成会活動の意義を共有出来たのではと思います。

本人大会は 第1分科会「みんなで話合おう『私の夢』」

第2分科会「スポーツを楽しもう」

第3分科会「手作りワークショップ」とバスツアー

これらを体験し有意義な時間を過ごせたのではと感じました。

全体会では「知的障害者福祉の未来」と題するシンポジウムがありました。

シンポジスト: 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園理事長 田中 正博氏

植草学園大学副学長・教授 野澤 和弘氏

(一社)日本発達障害ネットワーク副理事長 大塚 晃氏

秋田大学院教育学研究科 藤井 慶博氏

コーディネーター: 全育連常務理事 又村 あおい氏

強度行動障害者の支援の在り方や地域移行を進めるための行動障害支援全国ネットワーク(仮称)構築、中核的人材養成研修の全国展開イメージなどの話に加え、長年検討し続けていたり療育手帳の全国共通化のため知的障害を知的障害者福祉法に定義し全国統一的な判定基準を導入する検討を早急に進めが必要であること、本人が地域の中で安心安全に自立した生活を送ることを支援するための地域連携ネットワーク構築による取組など新しい展開がありました。(三村)



第23回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

令和6年10月26日～28日まで「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを」を大会メッセージに佐賀県で開催され、長崎県から個人競技41名と知的混合ソフトボール14名、聴覚バレーボール男女各11名が参加し、金メダル15個、銀メダル14個、銅メダル16個計45個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目1	種目2
陸上競技	臼木 大悟*	200m 第1位	100m 第1位
	西山 蓮*	200m 第3位	100m 第3位
	大石 祥*	200m 第1位	100m 第1位
	古川 侑佳*	200m 第3位	100m 第3位
	佐藤 美咲		100m 第3位
	鐘ヶ江瑠奈	ジャベリックスロー2位	
	上記*4名	4×100m リレー第1位	
水泳競技	斎藤 伸策	25m 平泳ぎ第3位	
	鶴田 裕介		50m 背泳ぎ第3位
卓球競技	高橋 由汰	一般卓球第2位	
	橋口 陽茉莉	一般卓球第2位	
フライグ ティスク競技	大下田正人	アキュラシー第2位	
ボウリング競技	平 憲治	第2位	
	山田 茂樹	第3位	

～ボウリング競技に出場して～

息子がボウリングをするようになって、10年以上になります。何回か試合にも行っておりますので、緊張はしないだろう、もう大丈夫と思いながら10月24日に長崎駅で見送りました。

「会場は広い」と応援に行かれた方に伺いましたが、練習日の夜、電話をすると元気な声で、「大丈夫」と本人が応えたので安心しました。

26日午前中、開会式で、午後がいよいよ本番！緊張しないで、普段通りに投げてほしい！と思っていましたが、その日、点数を撮った写真を送っていただきましたので、確認したらやはり！きっと会場の広さと人の多さに圧倒され緊張したのでしょう。その夜電話すると元気なく、「開会式で雨に濡れて疲れた」と話していました。励ましの言葉をかけながら、明日は緊張しないで投げてほしいと願うばかりでした。

しかし、今回の大会は、十分に力を発揮することができず終わりました。試合のあとは、みなさんと食事をして少しほっとしたようです。家に帰ってきて、開会式、閉会式は楽しかったことや、ホテルの食事は美味しかった、お風呂は温泉で気持ちよかったです。試合で、メダルを取れなかったのがよほど悔しかったのか、話はしませんでした。これから頑張って練習していくようです。みなさまお世話になりました。ありがとうございました。（時津町手をつなぐ育成会 増山 尚史選手の母）



ボウリング競技の選手たち（右が増山選手）

事業所協議会 in 五島

令和6年11月29日(金)五島市福江総合福祉保健センターで、今年度3回目の事業所協議会を開催しました。朝7時40分のジェットフォイルは悪天候のため欠航し、8時5分のフェリーで約3時間、波に揺られながら、福江港に到着しました。前日移動した西海市育成会2名を加え長崎からは15名と五島市育成会会長が参加して、はまゆう作業所見学及び地域福祉事業所会(事業所協議会の会議名称)を開催しました。

項目は、①育成会の事業所として意識している具体的なこと②利用者の所得保障への取組について(物価、人件費の高騰への対策や工賃向上等)③就労定着支援・就労選択支援について、と幅広い内容となりました。なかなか解決の難しい課題でしたが、各育成会の発表を聞いて、同じ課題もあるが、それぞれ工夫している具体策もあり、参考にできるところは改善し、同じ課題についてはそれぞれ意見交換しながら地域に応じた対策をまず講じていこうという雰囲気が醸成されました。

当日長崎へ帰る6名は、慌ただしく16時5分ジェットフォイルで福江港を出港しました。残る9名は懇親会で五島の焼酎を堪能しつつ、打ち解けた雰囲気の中で、さらに育成会事業所の利点を活かした運動と運営の健全性について深掘りした議論を展開しつつ、遅くまで五島の夜と活魚を味わいました。

懇親会までの間、宿泊組の6名は小島会長のご好意で鬼岳・堂崎教会を見学し、五島市の全景、島特有の自然、特にきれいな海の色と山の緑のコントラスト、教会のたたずまいや歴史、特に信者の生活など短い観光でしたが、町中から一時的に離脱し、心が洗われるような気がしました。(三村)

参加者から

漁業の家に生まれ育った私でも、五島行きのフェリーの揺れはつらかった。

五島市はまゆう福祉作業所を視察させていただき、あらためて離島等過疎地での障害福祉を地域の小さな事業所が懸命に支えていることを実感しました。

国は大規模法人化をすすめているようです。

私は、全国手をつなぐ事業所協議会に、九州ブロック担当として出席させていただいているが、離島がある長崎県の立場として、機会ある毎に、小規模法人や小さな事業所が、離島や過疎地の障害福祉を懸命に支えている現状を伝えていきたいと思います。

また、当事者団体で運動体である育成会と事業体である事業所協議会、しっかりと連携し、誰もが生まれ育った場所や本人が望む場所で生活できるよう、運営や支援等の課題を共有し充実に向け協力し合い、また、国への具体的な施策の提案もできればと思っています。(長崎県手をつなぐ事業所協議会副会長 島原市手をつなぐ育成会 統括管理者 菅 敏洋)



見学した はまゆう作業所

今回は五島市での開催という事もあり、ジェットフォイルでの優雅な海の旅と意気込んでいましたが、当日は天候の関係でフェリー3時間10分、荒波との闘いとなりました。ついて直ぐに、五島市はまゆう福祉作業所を見学させて頂き、作業の様子や整理された事務所など興味深く拝見させていただきました。

地域福祉事業所会では育成会会員の増えない状況や物価高騰による利用者様の生活の不安・事業所運営に係る経費の高騰、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定における新事業への取り組みなど各育成会の現状を聞くことができ大変有意義な会に参加させていただきました。

中でも、育成会会員の増えない状況は諫早市の課題もあり、団体賛助会員のことも進めていきたいと話していた最中、竹内会長のお話から団体賛助会員には、「手をつなぐ」の本の配付や必要な研修ビデオの提供などの会員特典があることがわかり、今後の育成会会員の増加と地域への啓発活動につなげていけたらと思います。

会の終了後は、小島理事長のご厚意で鬼岳や堂崎教会を案内していただきました。また、懇親会を通していろいろなお話ができたことは大変良かったと思っております。お世話になりました五島市手をつなぐ育成会のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。(諫早市手をつなぐ育成会 常務理事 兼 多機能型事業所つくり学園 管理者 山口 由香)

五島市はまゆう福祉作業所



はまゆう作業所は、五島市総合福祉保健センターの3階にあります。定員は20名です。

作業内容は、菓子箱折り、珊瑚ストラップ、ししゅう布巾作り、封入作業などです。

また、お花見や海水浴、レクリエーションもあり、「楽しいところにしか人は集まらない」をモットーに職員一同頑張っています！！



《珊瑚ストラップ》 550円
五島のサンゴで作ったストラップです。



《菓子箱折り》
五島銘菓 八匹雷（ハッチカンカン）
の菓子箱折りをしています。

《刺繡ふきん》 300円
五島市のイメージキャラクター
「ごどりん」「つばきねこ」「バラモンちゃん」
などをモチーフにした、ししゅう布巾です。



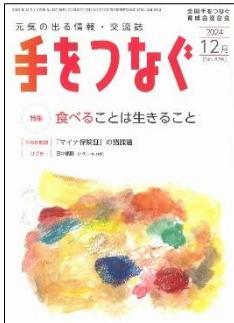
《クリスマスリース》 400円～2,000円
地元の松ぼっくりを使用した
クリスマス飾りです。

住所 五島市三尾野1丁目7番1号
総合福祉保健センター3階
Tel/Fax 0959-74-2870
Eメール Hamayuu118@topaz.ocn.ne.jp
営業日時 月曜日から金曜日までの9時から17時まで
運営法人 特定非営利活動法人五島市はまゆう福祉作業所



《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所 及び 主 催	概 要
障害者 110 番事業 無料法律相談	1月 16 日(木) 2月 6 日(木) 2月 19 日(水)	島原市福祉センター 長与南交流センター 平戸市社会福祉会館	13:00~13:30 「保険のはなし」 (ぜんち共済・生活サポート協会) (長与町: 保険の話なし講話前倒し) 13:30~15:00 講話・質疑 「障害者差別・虐待などの 悩み相談について」(後見含む) 弁護士 曽場尾 雅広氏 15:00~17:00 個別相談(なんでも可)
権利擁護セミナー (全国手をつなぐ育成会)	1月 31 日(金)	尼崎市 (ハイブリッド開催)	12:30~16:00 ① 国立のぞみの園理事長 田中 正博氏 ② 自閉症症総合援助センター施設長 坊垣 勝彦氏 ③ シンポジウム
本人部会「長崎きずな」 連絡協議会	3月 16 日(日)	長崎県 総合福祉センター セミナールームD	10:00~12:00 1年間の反省・次年度に向けて
全国育成会フォーラム 会長・事務局長会議	3月中旬	全育連(東京)	会長・事務局長会議はオンライン 育成会フォーラム・行政説明は 事前収録配信方式
長崎県育成会理事会	3月 19 日(水)	長崎県 総合福祉センター セミナールームA	13:00~16:00 R 6 年度補正予算等 R 7 年度事業計画・予算等



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。 年間 3,900 円 B5 版 48 ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

お申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

このようなお困り事に
心当たりがある方に…

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんちの
あんしん保険

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの
こども傷害保険

・最高日額1万円
・個人賠償責任補償
・弁護士費用補償
・安心サポート

・入院・通院を日額保障
・個人賠償責任補償
・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート



ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」を
よくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

【2020年1月作成 19-TC06633】

0120-322-150

平日9時~17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社トータル・サービス

〒850-0033 長崎県長崎市万才町6-35 大樹生命長崎ビル5F

TEL: 095-827-7705 FAX: 095-832-2580